

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504054		
法人名	株式会社 コムネット		
事業所名	グループホーム 家族		
所在地	広島県福山市千田町三丁目26-13		
自己評価作成日	平成24年11月18日	評価結果市町村受理日	平成25年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成24年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度、季節感を味わえるような行事を行っています。また、気兼ねなく近隣の方に訪ねて頂けるよう、玄関は開放し季節の花を飾っています。AEDを設置し、近隣の緊急時には貸し出しをする旨、運営推進会議で公表しています。
日々楽しく気兼ねなく暮らせるように取り組み、利用者さんやご家族の思いを尊重したケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に大きく掲げられた理念は自然と来訪者の目に入り事業所が理念に基づき、事業所名のごとく温かみがあり家族のように日々暮らしている事が窺い知ることが出来る。利用者の尊厳を大切に思い、公平に公正に利用者や家族に安心してもらえるケアに取り組んでいる。AED設置で緊急時に於ける対応はもとより、地域にも必要時には貸し出す事を伝え、地域貢献にも力を注ぎ、様々な機会を通して地域に根付く取り組みをされている。少人数制でケアが行き届きアットホームで細やかな対応が出来ている。今後更なる発展に期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のミーティングで理念を確認し共有している。管理者を中心に職員と目標を立て理念の実施に向けて日々取り組んでいる。	月1回のミーティングで理念を読みあげ、その後スタッフ全員で噛み砕き、どういう方向を目指すか話し合っている。新人にはミーティングの時指導し全員浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の施設となり祭りや町内清掃、住民学習等の参加や「家族通信」の回覧を継続している。	子供110番で学校や近隣から情報が知らされてくる事もある。町内の集会や講演に参加して顔見知りになり事業所を知って頂くことや地域貢献に繋がっていくきっかけとしている。毎月通信の回覧の継続は成果が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気楽に相談できる地域の相談窓口として利用して頂けるよう、運営推進会議などで声かけをしている。また、収集ボランティアで地域の力を借りることで活かしやすい環境を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、活動報告やホームの現状報告をすると共に推進委員より貴重な意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	会議には町内会、老人会民生委員の地域の関係者や行政2人、包括2人複数参加があり充実している。小規模と合同で家族会と兼ねて行うこともあり、事業報告や前回の指摘への取り組み状況等の説明を行い、避難訓練の実施報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質疑以外にも意見交換を行い、サービスの向上に活かせるように努めている。	不明な点があれば電話をしてアドバイスを求めている。担当者に積極的に質問しサービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けず、常に見守りに気を配っている。	事業所内の事例に基づいてその都度拘束について話し合い検討している。言葉や精神面の拘束についても同様である。安全上の転倒防止でセンサー設置で対応したり誰かが常に見守る体制をとり抑制のない安全な暮らしとなるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待防止に努め、疑問に思ったことは全職員で意見交換を行い、虐待を見過ごされないよう注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の相談などの中で、地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度を活用できないか検討し支援するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に面談して不安がないよう分かりやすく説明をし、疑問点にも納得していただけるように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情相談窓口を設けている。また、重要事項説明書には外部の苦情窓口として介護保険課の連絡先を明記している。	家族の来訪時普段の様子を伝える中で意見や希望を聞き取り、内容は職員で共有されている。運営推進会議や家族会で出された意見についても検討し改善策を次回の会議で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度ミーティングを開き運営に関して職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	ミーティングでケア面については忌憚なく話しあいができ、その中で検討されている。スタッフのみんなの中で言いにくい意見などはユニットリーダー又は管理者、施設長それぞれが言いやすい方に聞いてもらう機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員に対して常に前向きな発想をするように言っている。また、各自が向上心を持って働けるように事務所にスローガンを掲示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が自分自身の為に「資格取得」をする様に、常に声かけし、各職員にも浸透している。研修会の案内は、社内掲示板にて行い、各自自発的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福山市包括支援センター三吉を中心とする、介護事業所の地域連絡会を通して、他事業所と交流を持ちサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安などに耳を傾けながら、安心して過ごして頂けるように、職員や他の利用者と馴染みの関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに、ゆっくりと時間をかけて情報収集している。また、ご家族の苦労など共感・受容するよう努めている。待機者の家族に月1回連絡をし、状態を確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているのか、他のサービスが適切だった場合は相談や情報提供などの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は出来ないところを補うだけでなく、家族の一員として利用者が主になれる部分が作れるよう家事等の工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況報告はその都度行い、家族と相談しながら一緒に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がいつでも面会に来られるようにしている。家族、友人、知人が面会に来られた時再度面会の声かけをしている。	馴染みの場所に出向くより、以前お稽古ごとをしていた人たちが訪問に来てくれたり、職場の人達が来られたりすることが多い。来訪者が来やすくなるような雰囲気にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、利用者同士が話しやすい話題づくりの提供をしたり、席替えをするなどし、支え合えるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設入所により契約終了された場合も、退所者へ面会し施設との関係が閉ざされないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿うように、日々の生活の中で、本人の希望を把握できるよう努めている。	団体生活の中でそれぞれが安寧な暮らしが出来るようにスタッフは積極的にその人の好み、出来ることを見つけ、一つずつ丁寧に接することを心がけて対応しその中で思いをくみ取り出来る限り実現に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、他施設より、生活歴などの情報収集をし、これまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はカンファレンスや申し送りノート、介護日誌で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでアセスメントした結果や本人が困っていることについて意見交換をしたり、家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。	普段の関わりの中でくみ取った本人や家族の思いを基にアセスメントやカンファレンスで検討してもらいたい内容を職員に聞き、それを基に計画を作成されている。個々の状態により適宜見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや介護記録からの気づきを、月1回のカンファレンスで共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望に速やかに対応できるよう柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りのみこしのルートに組み込んでいただき、教育機関の文化祭に招待していただき、中学生のチャレンジウィークへ参加する等の協働が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が3週間に1回往診し治療方針等は、家族の希望を聞き、納得を得てから医療機関の受診も支援している。	協力医と歯科医から毎週1回往診がある。専門医療機関への対応は家族に支援してもらっている。受診結果についてはその都度協力医や家族に報告する仕組みとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置により、日常の関わりの中で気づきや異常などの情報をいち早く、相談し助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院側に生活上の注意事項を情報提供し、退院後の生活、注意点など病院関係者との情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化時、その時その時に本人・家族が考えている終末期の在り方を確認し、かかりつけ医や職員と話し合いケアの方針を共有している。	利用者の身体状況の変化に応じて家族、医師、看護師、スタッフ等が対応し意向のズレが生じないように取り組んでいる。看取りの経験はあり、事業所ではマニュアルを通して勉強し関係者のケアへの方針の統一がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践に備えて研修を重ね、応急手当、緊急時の対応の手順と連絡網を作成している。AEDを設置し講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な状況を想定した避難訓練を実施して。避難訓練の際には、町内の消防団、消防署員の協力を得ている。	併設小規模事業所と共に合同で訓練を実施し、消防団が毎回出席して頂き助言を頂いている。訓練後反省点を基に次に繋げている。消防競技大会に毎年出席し意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	画一的にならないよう、一人ひとりに言葉のかけ方や対応を考慮しその人に合った対応をしている。	尊厳を重視した言葉かけとなるよう注意している。プライバシーに配慮しトイレの声かけや排せつ介助時出来るだけその方の耳元でしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の理解度に応じた分かり易い言葉かけや言葉遣いで、利用者が意思決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添った支援を行い、起床、食事などは時間を決めて、規則正しい生活を送ってもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んで頂いたり、洗面、髪をとかず等は毎日している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などそれぞれ得意なこと、出来ることを活かしながら職員と一緒にしている。	下ごしらえも利用者の力量や意欲を加味し、声かけをして職員と共に行っている。食事中は介助の必要な方の傍らに座り、他の方にも気を配り食事されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別に記録し、栄養バランスを考えた食事を作っている。一人ひとりの状態に合わせて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、一週間に1回訪問歯科を受けている。定期的に義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導をしたり、声かけをしてトイレに行ってもらいように支援をしている。	パターンを把握し、時間を見計らって声かけをしトイレに行って頂き出来るだけトイレで気持ちよく排泄して頂くよう支援している。夜間はその方の状態をみて安眠を妨げず個々に合わせ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む野菜を中心とした物を提供し、また水分摂取、散歩などの働きかけをして、個々に応じて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入眠を促すために夕方の入浴を支援している、入浴拒否がある場合は無理じいせず時間や日を変え声かけしている。	体調に配慮し週2回程度入浴し、清潔保持している。夕方の時間帯となりこれまでの生活に近い環境での入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	他のユニットまで散歩をしたり、体調に合わせて休憩して頂き、生活リズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を綴じ何時でも確認できるようにして日々経過観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとり出来る事をして頂いている。洗濯たたみや食事の準備、片付け等、また趣味のぬり絵や書字等で誉められる事で笑顔が見られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の重度化もあり、事業所単位での外出が困難になっているが、少数での外出や時に家族が来られて外出などをされている。	利用者の介護度が高く現状では頻繁に外出は難しい面があるが、ケーキを買いに行き利用者が喜ばれた事や家族と共に花見に出かけた事もある。天気の良い日には外気を感じてもらうために日向ぼっこをすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望によりお金の所持をしている方もいるが、お金を使える機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話、手紙の希望があれば家族と相談をしたうえでやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下などには花、折り紙などを飾り工夫をして季節感を感じている。	共有空間にある畳スペースは床があり落ち着いた空間と、食卓は台所からよく目が届く。観葉植物や生花が飾られ心和む空間である。温度湿度の管理も適度に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと椅子の場所、畳敷きのコーナー、玄関先のベンチ等それぞれ思い思いの場所でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを持ってきてもらい、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	鏡台、タンス、テーブル他利用者が使い慣れた物品や家具が持ち込まれている。レイアウトも好みを重視し落ち着いた部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれには表札を貼って分かりやすいようにしている。廊下、トイレなどは手すりをつけて、安全かつ出来るだけ自立した生活が出来るように工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の重度化もありGH全体での外出が難しい。	利用者が地域交流が出来る関係作り。	社協・地域ボランティア・家族など施設行事に参加を利用者との関係作り、地域行事に参加した際協力を求める。	1年間
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。